

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



# 埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : *Christ's Forgiveness*

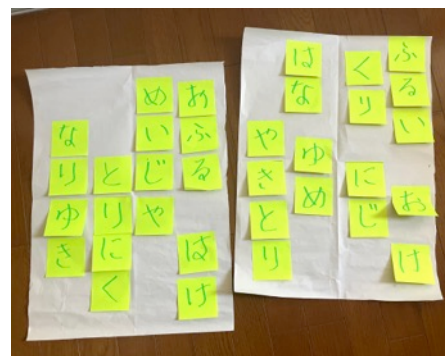
2025  
12月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

クリスマス祝会  
@所沢・さいたま市

この一年世界は虎ンブに、国内は熊に振り回され、パレスチナ、ウクライナは解決の目処もたたない。ならば「忘年」でなく「望稔」の気持ちで、家族や友人と過ごしたいですね。今号は水無瀬青年の故長嶋選手との出会いの続きを掲載しました。Merry Christmas and a very Happy New Year !



[写真メモ] 左上とその下は所沢YMCAのクリスマス祝会と、煙突なきビルに突如現れたサンタクロースと出会う子供の写真。右の3枚は「き咲きてらす」で開催した埼玉ワイズのクリスマス例会のもの。3枚目は余興に実施した4グループ対抗の「俳狂わせ」ゲームの勝負後、2グループが発表したもの。やはりクリスマスは和やかなのが良い。右上・右中写真は上松メン提供。

## 今月の聖句

「イエスは再び人々に語られたらた。私は世の光です。わたしに従う者、消して闇の中を歩むことはなく、いのちの光を持ちます。」

ヨハネの福音書 8章 12 節

## 1月「成人の日」例会

日時：1月12日（月・祝）10:00～12:00

会場：市民活動サポートセンター（パルコ9階）

プログラム：「YMCAを学ぼう」

## 1月 夜談会

日時：1月5日（月）午後6時～8時

会場：サイゼリア（浦和駅東口）

会費：各自の飲食した分のみ。

\* 気楽に知り合い、和やかに見識を広げるさばけた市民の集いの場。すぐ馴染めます。（覗いてみてください）

## ◆❖◆❖◆エッセイ◆❖◆❖◆

### ◆「大先輩との思い出（２）」

水無瀬 隆造 メン

\* 11 月ブリテンで筆者は立大 4 年時に、巨人軍の世話係のアルバイトで、大学先輩の長嶋選手と出逢いがあったことを語った。今号はその後半である。



またある日「アルバイトで家庭教師をしている、立教小学校の児童が大の熱烈な巨人ファンです。」と伝えたところ、長嶋選手は「巨人軍のレギュラー選手のサインを集めてあげる」と言いました。

まさかと思っていたところ、巨人軍の 13 人の著名な選手がサインした色紙をいただきました。それには大変驚きました。当時の別当監督の名前を中心に、13 人の著名選手がサインをしていました。当然王選手のサインも。巨人軍の選手の



サインを個々に取るのは大変なことです。しかし長嶋選手のお願ひと言うことで各位がサインをしたと思います。これは巨人軍における長嶋選手の人望があつてのことと思

いました。大変貴重な色紙でしたが、巨人軍の熱烈な大ファンである、この児童にはサプライズ・プレゼントになりました。

アルバイト最後の日に長嶋選手のところに挨拶に行ったところ、「頑張れ。水無瀬君へ。長嶋茂雄」と書かれた色紙をいただきました。私はまさかそんな色紙をいただけるとは思いませんでした。その色紙をスーパースターの大先輩からの励ましの言葉として今も大切にしています。

大先輩はファンを大切にする国民的大スターでした。ほんの 6 カ月のことでしたが、大先輩と親しく接する機会に恵まれたことは、私の青春時代の懐かしい思い出となりました。今にして思えば、立教大学の大先輩として、「母校」を愛し、また「後輩」も愛され、「謙虚」、「優しさ」の姿勢は、立教大学で身につけたキリスト教精神で培われたものと思います。私はその色紙を見るたびに当時を懐かしく思い出します。ちなみにもとは阪神ファンだった私ですが、それ以来ずうっとジャイアンツの熱狂的大ファンであります。（写真は学生 YMCA の仲間と）❖

## ◆「戦禍のクリスマスを思う」

上松寛茂 メン



クリスマスの前に 4 本の映画を立て続けに見た。そのうち「手に魂を込め、歩いてみれば」と、「ボンヘッファー ヒトラーを暗殺しようとした牧師」を紹介したい。

先ず「手に魂を込め、歩いてみれば」は、ガザに住むフォトジャーナリスト、ファトマ・ハッスーナさんとイラン人監督セピダ・ファルシさんによる一年間のビデオ通話のドキュメンタリー映画。イスラエル軍の攻撃で廃墟と化したガザの街並みを背景に語る彼女の声はなぜか明るい。同作品がカンヌ映画祭での上映が決まり、監督が彼女に報告した翌日、爆弾で家族 6 人と共に殺害された。25 歳だった。

「ボンヘッファー ヒトラーを暗殺しようとした牧師」は、精神科医の父と教師の母の家庭に育ったボンフェッファーが牧師を志願し、米国の神学校に留学中に、黒人差別撤廃運動の影響を受け、告白教会設立後、ヒトラー暗殺計画に加わるが、逮捕され、絞首刑になる。映画はヒトラーのユダヤ人虐殺に抵抗する反ナチ運動の闘士となっていく過程を描く。ボンフェッファーの信仰は「悪の前の沈黙は悪であり、神の前に罪である」、「行動なき信仰は、信仰ではない」というものだった。享年 39。絞首刑の 2 週間後に連合軍が勝利し、ナチス崩壊、第 2 次世界大戦が終結を迎える。

イエス・キリストの生誕地中東のイスラエルとパレスチナの戦闘ではガザの住民の死者は 7 万人を超えたという。教会の礼拝では「ウクライナや中東での戦争を一日も早く終わらせ、平和な世界を取り戻して下さい」と祈るが、やはり遠い国の出来事、切迫感がない。改めて戦場に生きる民のクリスマスに思いを馳せた。❖



\* 写真は筆者が 20 年程前に取材先のスロバキヤの首都ブラチスラバの公園で見つけた「プラハの春」の主導者、元共産党中央委第一書記 A・ドブチェクの胸像の前で撮ったもの。



## ◆ SDGs を農村に：YMCA ザンビアの取組み

12 月 EU のユース・エンパワメント・ファンド<sup>(1)</sup>のネットワーク・ソリューションズ・グループを通じて、ザンビア YMCA はムンブワ地区で 5 日間の青年向けアグロエコロジー<sup>(2)</sup>・プロジェクトの短期特訓合宿を支援。全国から約 50 人の農村青年が参加した。

今回は、以前カフエ、チョングウェ、ムンブワで実施した合宿研修の次段階として、持続可能な農業を目指す学習・交流・活動を進めていくためのプラットフォーム作りを学んだ。参加者は、持続可能な農業に焦点を当てた実践的研修を通じて、アグロエコロジーを学んだ。具体的には、食料安全と気候変動へのレジリエンス、土壌の保全など。特にチランガの農業研究所内の国立植物遺伝資源センターを視察して、参加者が種子バンクと保全、土壌物理学、農場と地域社会の持続可能な関係維持について理解を深めた。

ユース・アグロエコロジー・プロジェクトは若者がスキルを習得し、生活力を高め、地域社会を主導できる訓練を支援している。ユース・エンパワメント・ファンドは、EU と“Big Six” ユース団体<sup>(3)</sup>のパートナーシップによって進められている。



1) EU ユースエンパワメント・ファンド：若者が SDGs の目的で企画運営できるプロジェクトを支援する EU の試行的基金。若者が申し込みしやすいように条件を緩和している。(基金総額 1,000 万ユーロ)

2) アグロ・エコロジーは農業 (Agro) と生態学 (Ecology) の合成語で、有機農業と自然生態系とを調和させながら、持続可能な総合食料システム作りを目指す運動の総称。



3) The Big Six Youth Organization：若者による社会変革を進める世界規模の 6 団体 (世界 YMCA、世界 YWCA、国際赤新月社、世界スカウト、世界ガールスカウト、エディンバラ公国際賞財団)

\* 本文は 12 月 19 日の英文記事をグーグル翻訳し、短縮意訳したもの。

冬の寒さが顔を覗かせた 11 月 23 日、2 年ぶりとなる「埼玉 YMCA フェスティバル」が所沢センターで行われた。朝早くからボランティア、スタッフが集まり、準備を開始。フェスティバル・スタートの時間になると模擬店やフリーマーケット、キッズショップなどが各所で活動を開始。

スタート直後の来場者は少なかったものの、昼ごろには各ブースで賑わいを見せていた。午後になるといよいよフェスティバル名物「ラッフル抽選会」だ。この日 1 番の盛り上がりを見せた。



来場者からは「今年はお店や活動が多くてたくさん楽しめた」「ラッフル抽選会、当たらなくて悔しいけど楽しかった」など様々な声が聞かれた。その一方で近隣イベントと重なって、行きたくても行けなかったという声もあった。秋は各所で色々と行事の開催が多いだけに、ボランティアや会員家族など多くの方が YMCA に来てもらえる内容を検討し、方法を工夫していきたい。

(埼玉 YMCA 職員 深田康生 記)

## 活動・会議メモ

### ◆ 12 月「夜談会」

今年最後の夜談会を 8 日にお馴染みサイゼリアで開催。QR コードでの注文が苦手な我々に対する定員さんの接し方も一時よりうまくなった。

さて今回の懇談は、一週間後に迫ったクラブのクリスマス例会の余興に浅羽会長が創作したゲームを練習 (試行) することになった。食後、会長が用

意した単語カードを参加者皆 2 枚ずつ取って、ゲーム開始。後日「トンデモ語り部」と命名。

要は手持ち単語を使って、順に物語をつなぐ、というだけだが、順番が回ってきても、前の人の話を聞くまで、手持ち単語をどう使うか決められないところがミソ。途方もない展開に出来るかどうかは参加者の想像力次第。2 巡し、改善点も挙げられ、会長は満足げだった。（浅羽 記）



\* 出席：浅香、澁谷、浅羽 m、宮原、衣笠、松本大輪、上松、浅羽

## ◆ 12 月「クリスマス」例会

12 月 15 日（月）の朝、クリスマス特別例会を「き咲きてらす」（以下「てらす」）にて開催。多くの親しいゲストとともに、茶菓をいただきながら、和やかに進めることができた。ゲスト紹介、上松メンの祈りのあとはゲームを楽しみ、クリスマス・キャロルをみんなで歌った。最初のゲームは昨年クリスマスで紹介した「俳狂わせ」（1 頁写真参照）。二つ目は前週の夜談会で練習した単語つなぎゲーム（「トンデモ語り部」と改名）。初めての顔合わせでも「てらす」やワイズつながりなので、すぐ打ち解けることができた。讃美歌「きよしこの夜」を斉唱し、記念写真で無事に閉会した。



今回特筆したいことは準備の段階で「てらす」常連の藤井さん、平山さんが茶菓の買出しを申出てくださいましたことと、開始 1 時間前に会場到着する予定だった浅羽会長が JR の事故で大遅刻したが、メンバーとゲストが協力して会場設営・受付をしてくれたこと。会の進行中も皆が助け合う場面に遭遇した。

終わる前に、参加者から感想をいただいたが、何人かのゲストが「世間のクリスマス・パーティ」と

異なり、家庭的な雰囲気が良かった、と語ってくれた。主催側としては嬉しかった。（浅羽 記）

\* 皆で歌った「赤鼻のトナカイ」の動画を衣笠メンが YouTube にアップしました。以下が URL。

<https://www.youtube.com/watch?v=Q4nkiyR3SZo>

[ゲスト]（敬称略・姓のみ）浅野 E・浅野 T・麻生・今村・大澤・大輪・金子・小林・角田・劉・森田・平山・藤井 S・藤井 F・宮原

[メン] 浅羽、伊藤、上松、衣笠、櫻井、高岡



## 仲間からの便り



### ◆ 今月の俳句 堀和光二郎メン（俳号 愚郎）

#### まな板の上で転がる冬リング

値段が高くて買えなくなったリングをいただき、喜んで包丁で半分に割ろうとしたら思わず転がってしまいました。



#### 冬帽子をちょこんと乗せる温かさ

毛糸で編んだ帽子を頭に乘せると禿げた頭にはそれなりの温かさがありますね。

#### 母も亡く鎌倉山も眠りけり

山眠るが冬の季語です。母がいた鎌倉山も寂しく感じます。

### ◆ 堀和光二郎メン

先月埼玉県俳句大会があつて賞をいただきましたよ。初めてなので嬉しかった。もう少し真面目に勉強しようという気になったね。オカリナ？今も練習していたところ。先日の一丁目一番地バンドがホームを訪ねて、そこでテナーのあとオカリナを吹いたら会場が盛り上がった。お互い良い年を迎えたいですね。

\* 電話の話をまとめました。（編集子）

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
12 月夜談会 (12/08)	9	3	6
12 月 例会 (12/15)	21	6	15



## ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会（Y's Men International）は青少年教育団体 YMCA を支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたい方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気を味わってください。年会費 4 万円ですが、ゲストでも一緒に活動できます。

\* 詳細は浅羽会長まで。（090-7426-5553）